

雑録

●女子高等師範學校彙報
 ▲ラット博士の講演 同博士は先月上旬の頃同校内に於て數回教育學の講演をせられた
 りと云ふ。

●本會精華會常集會豫告の如く本會第四十二回常會は去月十三日午後一時卅分麹町區九段坂下なる中學校運動場にて運動會を催されたり當日は前日の快晴に引換へて朝來の曇天にて午后よりは小雨さへ交りたりしが、中々の盛會にて同四時無事に終了閉會せりと云ふ。

●東京で捉つた鼠 東京にペスト發生以來市役所で買上げた鼠の數を聞くに初の程は統計表も不明で分らぬ所るあるも三十五年十二月廿八日より去る十八日に至る迄の数は五百六十八萬九千三百五十一匹なりと云ふ、而して鼠の尾は大なるものは六寸、小なるものにて生後五十日を経過したるものは二寸乃至三寸の尾を有す若し假に之を平均四寸とし右の鼠の尾を繰合して見ると云は、其長サ百七十五里廿一町餘で東京より、岡山地方に往く程の延長なり、又之を代金に見積ると云は一匹十錢のこともありしも通常は五錢なれば其價格二十八萬四千四百六十七圓五十五錢となる尙ほ鼠の買上げには懸賞金あるを以て是等を合算すれば更に多額に上るべきも去る四月よりは此懸賞金を中心止したるに係らず各區で鼠の買上げをなす數は以前と異なるをなく一日平均の買上げ四月は約四千五月に五千而して本月は平均八千に上らんとする

●習科生の唱歌「想起」を聞く小春日和のうららかなる日かげに來會者一同樂しげに語り合ひて午後四時三十分散會せり。

●東京で捉つた鼠 東京にペスト發生以來市役所で買上げた鼠の數を聞くに初の程は統計表も不明で分らぬ所るあるも三十五年十二月廿八日より去る十八日に至る迄の数は五百六十八萬九千三百五十一匹なりと云ふ、而して鼠の尾は大なるものは六寸、小なるものにて生後五十日を経過したるものは二寸乃至三寸の尾を有す若し假に之を平均四寸とし右の鼠の尾を繰合して見ると云は、其長サ百七十五里廿一町餘で東京より、岡山地方に往く程の延長なり、又之を代金に見積ると云は一匹十錢のこともありしも通常は五錢なれば其價格二十八萬四千四百六十七圓五十五錢となる尙ほ鼠の買上げには懸賞金あるを以て是等を合算すれば更に多額に上るべきも去る四月よりは此懸賞金を中心止したるに係らず各區で鼠の買上げをなす數は以前と異なるをなく一日平均の買上げ四月は約四千五月に五千而して本月は平均八千に上らんとする

の形勢あり又最近の調査に依りて之を區別すれば、最も多きは神田區にして深川、芝の一區之に次ぎ而して最も少きは赤坂區なり。

●古今未曾有の大水晶武田山梨縣知事の談に依れば今回同縣下北巨摩郡増富村の山中に於て古今未曾有の一大水晶を發見したる旨報告ありたるに

付さ實地に就て取調べしに右は高さ四尺五寸、直徑一尺五寸重量一百五十貫以上のものにして山中より搬出するに、頗る手數を要するを以て共進會協賛會は一百五十圓の補助金を與へて、不日出陳せしむる筈なりとぞ因に記す目下共進會出陳の水晶は最大と雖も七寸に過ぎずして其賣價一萬八千圓なりと云へば前記大水晶の如きは其價格莫大なるべしと。

●教育科音楽科の女子合格者教員検定試験に女子の志願者及合格者の多きは裁縫家事の二科にして次は音樂國語なるが本年の豫備試験音楽科の合格者中女子は新潟縣小田よし子氏一人又教育科に女子は和歌山縣門とよの氏合格せり教育科に女子の合格は例年極めて稀なり。

●ライスカレーの種商店より製造發賣のライスカレー種は主人が多年苦心と實驗の結果乾燥固形製なるを發明せしものなれば旅行用携帶等にも手數も道具も要せず且つ乾燥製なれば腐敗變味の憂ひ無しとの事なり。●獨逸に於ける子供の日曜日日曜の安息日を分けて、樂の家庭に親しみ其の内情に精通せるドクトル宇良田しみにして居る子供等には何うか一日愉快な遊びを取らせたいもので、此の點に就き多年獨逸の女史は子供の日曜日に就き趣味ある談話を試みられました。

▲日曜日の遊び事 土曜日の晩からして明日は何處へ連れて往つて下さいます、と子供はサモ愉快げに此事を両親に尋ねます此時両親の答へは多くは「郊外へ散歩に連れて往きませう」とか或は「か伽芝居へ見物に遣りませう」とか左もなくば胡桃のある時などは「裏の胡桃と一緒に落さう」とか「繩飛びを往ませう」とか總べて親達が子供の境遇になつて、少しも大人の心持を出さずに子供の趣味を充分に與へて遣るやうにします、故に子供と

共に遊ぶ時は父も母も全く子供の氣になつて遊びます。▲面白い伽芝居^{よさぎやう}は是等の遊びの中で郊外へ連れ出すのが一番多く之れは何處の家庭でも行ふ事です、其の次^{そぞ}は伽芝居で大抵午後の三時頃から夕景へ渡つて興行し其の時間は凡^{おも}三時間位です。これは教訓^{きょうくん}と趣味^{しゆみ}を兼ねた有益な興樂^{こうらく}で、彼國の子供は日本で大人が芝居を楽しみにするやうに大層^{おほそ}其日を待詫びて居ます。

▲御馳走^{ごちそう}はしない郊外へも公園へも亦^よ芝居へも連れて往かぬ時は兩親が一緒になつて庭園で繩飛^{なわと}や毬投げをいたします、左もなくば子供の友達^{ともだち}が尋ねて來ますが日本のやうに親達が菓子や果實^{くだもの}を無暗に與へるやうな事は仕ません、珊瑚^{さんぱん}でも御馳走すれば夫^めが關の山^{よし}です、夫^めが現晚餐^{げんばんさん}なども決して出しませんから其の時刻が來れば遊びに來た子はサツサと帰ります此の規律^{きゆりつ}はナカ^ノ嚴^{ひびき}ですから遊びに遣つた爲め子供が胃腸^{いんぢよう}を傷めて

來たと云ふやうな事は決してありません、日曜日^{にちよう}の晩は平日^{へいじつ}の如く夕飯^{ゆふはん}が畢^{まつ}ると七時^{しち}から八時迄^{まで}には必ず臥床^{おのと}に眠らせ宵張りなど確く禁じてあります。●逸^{いつ}家庭^{かてい}教育^{きょういく}の一法^{ほう}は是も同女史の談話なるが獨逸^{ひとりよき}の家庭では子供の悪い行ひを矯正^{きょうせい}する事に就いては種々苦心して教訓すべき方法を研究せらるゝが其中の一ツに「ニコライ」と云ふのがあります之れは毎年十一月の廿一日に孰れの家庭でも行ふ事ですが夫^めが子供の惡癖矯正には有力なる効を奏すのです、此日^{このひ}の夕景^{ゆふがけい}になると一人の中學生か左もなくば其年配の青年^{せいねん}が突然家へ這入つて来ます、其の服装^{ようぶつ}は長い獅子^しの毛^ののやうな毛皮^{もうひ}の外套^{えいわい}を着て恐い顔^{おもて}に扮して手には太い洋杖^{ヨウジョウ}を握り何處までも怖ろしげな扮装^{ふんざう}でヅカ^{ヅカ}と子供の側へ來るのです、尤も此の青年は兩親の知つて居る筈ですが此の時は飽^あ迄父^おや母^めも知らぬ人のやうな風をして居ますから子供は喰驚^{くわいき}して震^{ふる}へ上らん計です、此の異様^{いやう}の青年は戰^え怖れる子供^{こども}を容赦^{ゆる}もなく腕^{うで}を捉^{つか}へ暗い一室へ連れ不^ふ往^{むか}一晩間の惡い行ひを測^{うなが}す

ねるのです、例へば、親達に何んな不孝をして言付けに背いたとか、或は「何々を壞したが嘘を吐いて眞實の事を白状しなかつた」とか、總て自分のした悪い事を此處で白状させるので、若し白状しなければ洋杖を振つて、打据あん計りの權幕を示すから子供は驚いて悉皆白状して仕舞ひます、遇ちを悔いて白状すれば、異様の青年は袋に入つた菓子などを與へ、「將來此様悪い事をしてはなりませんよ」と懲に訓戒をなし、次ぎの子供があれば又其の子供を此の通りの方法で訓ねます爾うして順次に大人まで調べますので、矢張り大人にも袋の菓子を與へます、此ニコライと云ふのは子供の時代には非常に怒るので、「嘘を吐くまい」と云ふ事や、「悪い行ひはしまいと」子供心にも考へますから之れが児童のために善い教訓になるのです。獨逸の子供は八歳位でも隨分剛情を張りますが、此日異様の青年の前に立つては泣出さん計りになつて直ちに改悔し白状いたします。(報知)

●五二共進會の發明品目下開會中なる五二共進會には專賣特許品三百點の外實用新案に係るもの

四百五十點を陳列せる由なるが右の中殊に目立ちて見ゆるは左の數種なり。

▲醸飴製造器
二つあり、ひとつは此種の器械發明の卒先者にて佐賀縣真崎照郷氏にして他は油臭きが常なる機械製のを臭からずまづからぬ様にと苦心せしは大坂の田中源太郎氏の發明なり

▲莖切器
蟻蟲を生ぜし稻の莖は、一々刈るに手數を要するに鐵棒を差入て容易に刈れる様にせしものにて五六錢の廉價なる故農家には非常に歓迎される發明者は静岡吉岡寅之助氏

▲上簇器
長野長谷川兵次郎氏の發明に係り養蠶の際用ふるまぶしと稱し蠶を立てたるを疊めは小なくなり保存に便にせし有益のもの十錢許にて賣れるが特長なり、階上東側には製作品多し

▲臺所道具
是は特許局の懸賞募集に當選せしもの第一に俎の足を鐵輪にて付け裏表とも用ひられ此輪が釘に引懸けられる様になつて居るもの拔さの穴を明けしもの火力の要り方少く直段は鐵

瓶とも一圓五錢とは輕便なもの新案出者は東京坂井寅三郎氏
 ▲紙製氷嚢 東京田中篤次郎氏の發明膀胱の如く臭くなく安さが取り柄なり
 ▲箔製造機 箔と云ふもの手で打つより外には出来ざりしを器械にて容易に上手に造り得る様にした
 たり京都の岩坪五兵衛氏
 ▲洋袴釣兼シヤツ 何方が兼か分らず兎に角シヤツ
 ツに洋袴を引懸る様にしたもの用ひて見ねば効能は分らぬらし工夫せし人は東京樋口太吉氏
 ▲桑皮處理方 桑の皮は養蠶地方にて澤山に棄て
 らるゝと是を製して紡績し織物を作る發明なり静岡藤井熊吉氏の發明にて見本の毛布は誠に立派な出來追ては會社を作つて盛に桑の皮紡績をやる見込の由卅万圓の資本で一年に十九万圓儲けると云ふ目論見書はちと仰山なる可き
 ▲廣瀬表 静岡井上半藏氏の新案竹をもつて下駄の表を作りしもの
 ▲人造麻布 東京大石保氏の新案麻同様に洗濯にも堪へさら／＼として着心好き筈直段は一反二圓

七八十錢
 ▲紡機 久留米紡會社の發明にて紡糸は從前手にて染め手數の懸りしを機械にて出来る様にせしもの久留米紡が格安なるも此機械のある爲めなりと新毛斯綸木綿にて毛斯綸同様の光澤品質の者を作りしなれば直段安く持よく体裁よし京都杉村甚吉氏發明
 ▲輕便洋傘 洋傘を四つに分離し一尺許に畳みて懷に入れる様したり即ち輕便と云ふも稍や洒落の如し發明人東京熊野吉藏氏、是が先づ重立しものもの勘さは蓄音器活動寫眞など西洋の驚く可き
 ●東京市の肺結核病(たる市民の數)肺結核病の恐るべきことは今更云ふまでもない、世界の學者が競うて其豫防法を研究して居るにも拘らず年々此病氣の爲に殞れるものは驚くべき程で他は倍置き東京の市民が昨年中に幾許犠牲に供せられたかと云ふに、警視廳での最近の調査によると

總死亡者
内肺結核死亡者
蔓延
計
男
女
一七、五八八人
二、八二九人
一六、六五一人
三四、二三九人
五、六五六人
二、八二七人
人（内男）六十六万三千百二十一人、女六十一万四千
○三十一人）に對し一万人に就き四、三人の比
例である、次に此死亡者の年齢に就て觀察すると
二十一歳以上四十歳迄の少壯有爲の人に最も多く
職業に就て觀察すると無業の者即ち所謂徒食者に
最も多く之に次ぎては各種の職工、商人、労働者
官公吏、會社員及び銀行員、學生等の順序で、殊
に飲食業者に比較的多いのは稍や注目すべき點である、更に轉じて一万人に對する各區の比例を取
ると次の通りである
深川五一、七△下谷五一、二△芝四九、六△本所四八二△本郷四
六、六△淺草四五、六△京橋四五、四△四谷四五、五△麻布四二、
九△神田四二、三△小石川四二、〇△牛込三八、〇△新町三七七
△赤坂三二、六△日本橋三一、三
以上平均四四・三
以上の調査によつて見ると肺結核病の都下に於ける

る蔓延の如何に恐るべきかを知るに足るが、抑之
が豫防の方法はどうすれば良いかと云ふに、細かい
簡條は種々あるけれど其中の最も眞髓ともす
き點は左に示す通りである
△公衆をして本病に關する知識を得せしむること
△醫師をして可成的此病氣の初期に診斷を決定せしむること
△貧困な肺結核病者は一定の場所に收容し無代にて治療すること
△既に此病氣に罹つたものは公德上他に傳播せしめざるやう注意せしむること
●小学校女教師の清國招聘
近くは千葉縣銚子染織
學校卒業生野口よし子（+）清國北京の教師として
聘せられしを始めとして近時わが女流教育家の家
庭教師として褓姆として或は教員として清國に渡航するもの多きは確かに女子教育界の一轉化とも
見る可なり本郷前田侯爵家々從田中駿吉氏の
妹たか子（三十）は此度清國湖南省常徳府に新設され
たる幼稚園の主任褓姆たるべき約成りて去る八日
を以て東京を出發せしが同女は金澤市の出身にて
夙く東京に出て京橋の村山小學校を始め二三の小
學校に訓導として數々執り五年前本郷西片町誠

之小學校附屬の幼稚園褓姆となりて今日に到りたるものにて、恰も清國より申込を受けたる府立第三中學校長八田三吉氏は種々搜索の結果同女を恰當の人物として選定したる次第にて月俸額は差詰め八十圓なる由同女は渡清後彼國に於ける摸範幼稚園を作らん意氣込んで種々の褓育に關する實用上の器具をも買入れ行けりと。

● 買喰する母に溢兒多し 方々の感化院や養育院にて感化教育を受け居る兒童は職業の比例如上商人醫師官吏の家庭に多く而して性質の共通なる缺點は百の九十九迄泥棒根性なりと云ふがさらず此根性は何處から湧出て来るかと云ふに東京感化院及び教育院感化部等の統計によれば中流以上の家庭の兒童に盜心の起るのは大抵父母が溺愛より金錢を濫費せしむるに生じかくして自然と虚榮心が劇しくなり父母より貰つた丈にては逆も満足が出ます初め家庭の物をチョロまかし次に友人などの品物をも盗みに至るものにして其れで大概身邊を飾る資本にするなりと云ふ、又下流子弟の盜心は其母が買喰ひをする習慣ある者に一番多く自然

れを見眞似て買喰をなし果は盜心を起すやうになるとの事なり此又買喰の習慣は摘喰ひより起ると云ふ事にて曾て東京感化院の厄介になりたる年俸三千圓も取る某高等官の妻君の如きは身が上流社會に生しにも係らず買喰ひが大好きにて其爲め遂に自分の嫁入道具迄も喰つてしまひ子迄なした中を離縁されたりと云ふが其子供が又自然に買喰ひを好み是も感化院に送られたりとの業因も亦恐ろしからずや、買喰ひ摘食ひ迄やる細君達はチト嗜まれて然るべし。

● 冷氣と呼吸器病 別頁にも記載の通り東京市に於ける呼吸器病の恐る可きものある折柄近來氣候不順にて冷氣俄かに催ふすかと思へば急に小春日に和の温氣となるため朝夕油断せば忽ち感胃に罹りは兎角に皮膚軟弱にして此際充分の注意を加へざ即ち氣管支加答兒の如きものに胃されし事ある人且つ最も注意すべきは昨今肺結核患者の著しく

増加せしことにて是等患者の訴ふる所を聞くに多くは十數日若しくは數十日の長き間風邪の氣味にて適當の療法を行ひしも一向に回復せず且つ數日來咳嗽を發して身心の疲勞を感じること太だしきより万一他病にあらざる無さやを疑ひて診療を乞ふべく來りしと云ふ者多し依つて之を診するに既に業に肺結核なるを斷するを得るなり元來本症の自覺的容体は盜汗、發熱、咳嗽、倦怠、疲勞、下痢、食慾不振、軀量減少等にして就中盜汗と旦晡潮熱とは診斷上必要なる参考症狀なれば寢汗を催し且つ原因不明の發熱持續せば速かに醫師の診断を乞ひ寸時も早く治療の途を盡して病勢の尙ほ昂進せざるに加養せば如何なる大患と雖も決して難治のものにあらず虚弱家は此際用心して第一に感冒に罹らぬやう能く

注意すべきなり

(和田博士談)

○官川壽美子女史
去る十月十三日本會常集會にて特に本會の爲め有益なる演説せられし同女史は明治卅五年家政學研究の爲め文部省留學生とし

▲英京龍敦に留學を命ぜられ來四年の今日首尾能く業を卒へて去月廿八日歸朝せられたるなるが家政師範科とも云ふべき所にて此處にて料理、洗濯、應用化學、裁縫、衛生と看護急救法一般の教授法等を約二ヶ年間研究せり扱て英國と家政學と云ふとに付大に世界の注意を惹く事あり同國は世界一般的の認むる如く上下の社會を通じて富の程度頗る高きが故に二三十年前までは家政に屬する上記の料理、洗濯、裁縫其他の如きは何れもハウス、メードに命ずるか左もなくば外に出して洗濯させ若くは裁縫せしめたるものなり然るに今より十五六年前に女子教育の勃興を來し女子は必ず家に在りて内助の効を奏するを東洋に於ける日本夫れの如く必ず又家政に要する總ての科學を研究するの必要ありとて頓に幾多の家政女學校は何れも中流以下の居住する高官令嬢や夫人中入學するは極めて稀れるなり東京にて言はゞ淺草とか深川の塙末とか乃至四谷

の街盡とか云へる處に其の設立を見るに至り爲に女史の在學せし女學校の如き極端に言へば四谷の鮫ヶ橋谷町にも似たらん處に設けあり其の一學期の授業料は日本の金に換算して九十圓にて三ヶ月間を一學期と定めあれば一ヶ月の授業料は三十圓にして女史が後に在學せし大學の如きは一學期百廿圓なりし

▲理論と實際日本の如く決して理論には重きを置かず奈何なる事にても理論より先づ實修を先にすると云ふ風にて家政女學校の如きは特に此の主義に則り料理科は云ふに及ばず洗濯科の如きは通常學生は兩親の給なり小供の物なり總ての洗濯物を學校に運び來りて洗濯をなし而して旋て其の講義を聽くことなり居れり同校卒業生の前途と云はゞ各區(東京に例すれば市立貧民女學校の家政教師か小學校の家政科の專科教師となるものが最も多く而して如上に設けある市立貧民女學校の家政教師か小學校の貧民學校は素より半官費の學校にて其の卒業生は多く上流社會其他のハウスメードとして雇はれり小學に奉職する者は規定に依り最初八十圓宛

の俸給と定まり居れり是れが年効と成績とにて二十圓まで増俸さるゝ規定なり其後女史は女子大學生に入學し公衆衛生を専攻したるが此の公衆衛生科なるものは奈何なる必要に應じて設けられしものなるかと云ふに其は

▲女子衛生検査員の養成處とも云ふべき處にて東京各區に設けある衛生組合の如きもの中には必ず此の女子検査員を要すると云ふに在り即ち個人衛生なるもの謂はゞ我が春秋二季の大清潔施行の當時乃至日頃一個人の邸宅を訪問して衛生法を注意する際には必ず家庭の情實に精通する婦人ならでは到底目の及ばざる處あり殊に家庭に於ける看護法及び育兒に關する衛生の注意は必ず婦人に限ると云ふ處より其の検査員たるべきミス、ハルバートを校長として斯る科目を設けたるものなりと云ふ

●幼稚園手技圖形 女子高等師範附屬幼稚園にて定められたる保育要項並に同附錄手技圖形は全國の幼稚園の参考となる節多ければとて文部省にては右の中要項だけを全國各幼稚園に配附せしが小石

川江戸川町なる高等女子學會にては今般之を上
梓して各需用者の求めに應する由詳しくは新刊案
内を見らる可し。
尚本會々員には特に割引して販賣すると云ふ。

新刊案内

一幼稚園手技圖形 定價金壹圓八拾錢
先般文部省が各府縣廳を経て全國の各幼稚園に
配付したる女子高等師範附屬幼稚園保育要項に
は元來附錄として手技圖形なるものありしが是
は印刷に多大の費用を要することにて配付の運
びに至らず。然るに各幼稚園にては何れも熱心
に其出版を希望し居たりしたために小石川區江戸
川町一二番地なる高等女子學會にて奮つて之を
出版せんなりと云ふ。体裁は横綴和裝の美本に
して圖形は何れも數度の採色捺に印刷せられた
り。而して本會々員には特に割引して一部金壹
圓五拾錢にて其需めに應する由、希望者は此所
の全文を切り抜きフレーベル會員たる事を書き

添へて注文せらる可し。

「子ども」尺秀三郎補譯
「子ども」を背負ふことは衛生上宜しからぬ事なりとは毎耳にしたことなるが譯者尺秀三郎氏は之を以て文明の風にわらず畢竟未開人の遺風たるに過ぎざるものなれば戦後の日本よりは直しく此審風を掃ひ去る可しとの意見にて世界各國に於ける幼童の背負ひ方、抱き方、等に就きて調査したるプロス氏の著書を本として種々補譯せられたるものなり。幼兒教育者には面白くして且有益なる讀者たるに相違なし。(定價金五拾錢本郷區本郷一ノ七育成會發行)

和洋裁縫大全

本書は彼の小出新次郎氏が一世一代の事業として筆を執られたりとかにて近來盛に豫約を募集し居れり本書を買ひ求めるとする人は向ふ一ヶ月間僅に毎日參詣參籠づ、貯蓄して出れば參詣冊と云ふ大部の本を易すく買ひ求むることが出来る豫約方法書や見本などを入用の向は當市青山原宿の女子裁縫高等學院出版部へ端書にて申込みば直ちに送る所である。